

East Japan Railway Worker's Union
Fukushima



JR東労組

福島

第 1740 号

(本年度 26 号)

2018 年 12 月 24 日

発行責任者 安田和広

編集責任者 教宣部

羽越線脱線事故から13年

二度と同じ事故を繰り返さない為に

組合員の力で「鉄道の安全再確立」をめざそう！



2005年(平成17年)12月25日19時14分頃、羽越本線北余目～砂越間にある第2最上川橋梁付近において、「いなほ14号」が脱線し、先頭車に乗っていた5名がお亡くなりになり、32名の方が重軽傷を負われました。

事故原因については、2008年4月「航空・鉄道事故調査委員会」から報告書が公表され、事故当時、瞬間風速40メートル程度の局所的な突風で車両が傾いたと結論付け、予見についてほぼ不可能であり、事故は避けられなかったものとしています。

しかし、私たちはこの事故を教訓にして、想定できる自然災害には、「防災・減災」の視点から、お客様と社員の「命」を守る取り組みを具体的にしなければなりません。

安全の最後の砦は「人間」です！

危険と思ったら列車を止める勇気を持とう！

そして災害に強い鉄道をつくり出していこう！